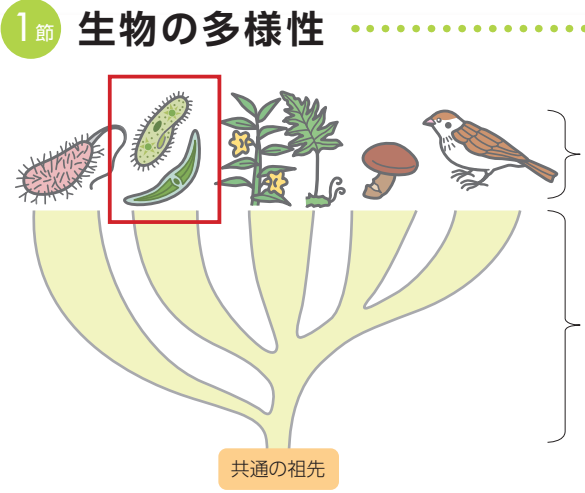
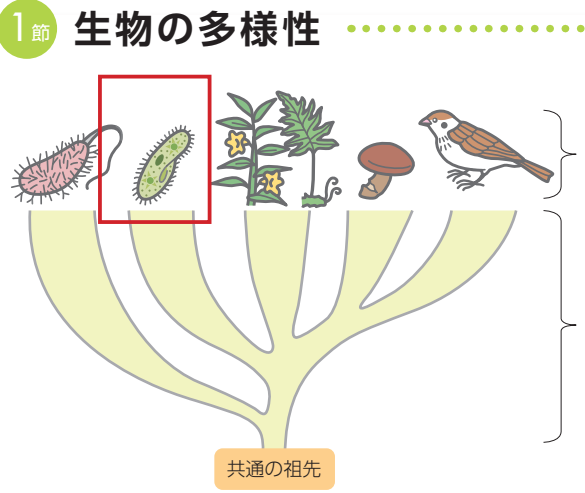


番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
1	22	左下	<p>1節 生物の多様性</p>  <p>共通の祖先</p>	<p>1節 生物の多様性</p>  <p>共通の祖先</p>
2	134	14	<p>●陸上のバイオーム</p> <p>陸上のバイオームはその環境における極相の植生であり、その相観から、<u>森林</u>、<u>草原</u>、<u>荒原</u>に大別される。また、その地域のバイオームがどの型になるかは、植生を構成する植物の分布に大きな影響を与える気候要因の年平均気温と年降水量によく対応する(図7)。</p>	<p>●陸上のバイオーム</p> <p>陸上のバイオームの植生はその環境における極相の植生であり、その相観から、<u>森林</u>、<u>草原</u>、<u>荒原</u>に大別される。また、その地域のバイオームがどの型になるかは、植生を構成する植物の分布に大きな影響を与える気候要因の年平均気温と年降水量によく対応する(図7)。</p>
3	150	2	<p>Let's Start!</p> <p>写真の動物は、<u>日本に生息するニホンリス</u>である。このリスは、一生のなかでほかの生物とどのようなかわりをもつだろうか。</p>	<p>Let's Start!</p> <p>写真の動物は、<u>北海道に生息するエゾリス</u>である。このリスは、一生のなかでほかの生物とどのようなかわりをもつだろうか。</p>

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
4	152	1	<p>実習から ①ヒトデがいなくなると、ヒトデが捕食していたイガイやフジツボの個体数が増える。</p> <p>②イガイやフジツボの個体数が増えることにより、無脊椎動物や藻類はイガイに生息場所の岩場を奪われ、個体数が減少する。</p> <p>イガイはほかのさまざまな生物と生息場所をめぐって競争している。ヒトデがいる場合、イガイの個体数が抑えられることで、ほかの生物の生息場所が残されている。しかし、ヒトデがいなくなると、イガイの個体数を抑える要因がなくなるため、イガイの個体数が増えたことで、ほかの生物の生息場所が減少し、種数が減少したと考えられる。</p> <p>A 生物間の関係性 キーストーン種 keystone species</p> <p>生物間の捕食・被食の関係は食物網としてとらえることができる。生態系では、多様な生物が複雑な食物網を形成している。もし食物網を構成するある生物がいなくなると、思いもよらず生態系のバランスに変化が生じる可能性がある。</p> <p>食物網の上位にあることが多く、個体数は少ないものの、その個体数が生態系全体に影響を及ぼす種をキーストーン種<small>しゅ</small>という。実習 14 では、ヒトデがキーストーン種であるといえる。ヒトデが直接影響を及ぼしているのは、被食者であるイガイの個体数に対してである。しかし、結果的には、イガイの個体数がフジツボなどほかの生物の個体数に影響を与えていた。</p> <p>また、イガイとフジツボのように、直接的には捕食・被食の関係がない生物の間でみられる影響のことを間接効果<small>かんせつこうか</small>という。</p>	<p>実習から ①ヒトデがいなくなると、ヒトデが捕食していたイガイの個体数が増える。</p> <p>②イガイの個体数が増えることにより、無脊椎動物や藻類はイガイに生息場所の岩場を奪われ、個体数が減少する。</p> <p>イガイはほかのさまざまな生物と生息場所をめぐって競争している。ヒトデがいる場合、イガイの個体数が抑えられることで、ほかの生物の生息場所が残されている。しかし、ヒトデがいなくなると、イガイの個体数を抑える要因がなくなるため、イガイの個体数が増えたことで、ほかの生物の生息場所が減少し、種数が減少したと考えられる。</p> <p>A 生物間の関係性 キーストーン種 keystone species</p> <p>生物間の捕食・被食の関係は食物網としてとらえることができる。生態系では、多様な生物が複雑な食物網を形成している。もし食物網を構成するある生物がいなくなると、思いもよらず生態系のバランスに変化が生じる可能性がある。</p> <p>食物網の上位にあることが多く、個体数は少ないものの、その個体数が生態系全体に影響を及ぼす種をキーストーン種<small>しゅ</small>という。実習 14 では、ヒトデがキーストーン種であるといえる。ヒトデが直接影響を及ぼしているのは、被食者であるイガイの個体数に対してである。しかし、結果的には、イガイの個体数がほかの生物の個体数に影響を与えていた。</p> <p>また、ヒトデと藻類のように、直接的には捕食・被食の関係がない生物の間でみられる影響のことを間接効果<small>かんせつこうか</small>という。</p>